

アンケートで回答があった「うまくいったこと」

※皆さんから寄せられた取り組みについて、参考となるポイントを記載しています。

分類	みなさんから寄せられた内容	評価
職員の感染・就業制限 面会・外出・家族対応 集団発生・クラスター対応	・感染症流行期に面会ルールを施設として取り組みしたこと、職員の健康管理への取り組みの強化と体調不良時は出勤停止の徹底を図った。クラスターの発生を防ぐことができた。	施設として方針を明確にし、職員間で共有しながら実践されている点が、継続した感染対策につながっていると考えられます。
職員の感染・就業制限 感染症別の対応	・発熱や胃腸症状等の体調不良がみられた際には出勤を控えるという意識が職員間に浸透し、感染拡大防止に向けた対応として定着しつつある。	体調不良時に出勤を控えるという考え方が職員間で共有され、実際の行動として定着してきている点が参考になります。
環境整備・消毒・嘔吐物処理 職員教育・訓練・情報共有	・施設に持ち込まないことを基本として、利用者、職員のうがい、消毒、検温の徹底で、持ち込みはなくなっている。	利用者・職員が日頃から感染予防を意識し、施設全体で取り組みを継続していることが、感染症の持ち込みを減らす一助になっていると考えられます。
職員の感染・就業制限 職員教育・訓練・情報共有	・施設内への感染症の持ち込み防止のため、職員の体調チェックを習慣化したり、少しでも有症状時の相談先を明確化したり、相談しやすい環境づくりに努めてきた。まずは持ち込まないことを職員間で共有してきたからこそ、入居者の感染リスクを減らしたと思っている。	体調不良時の相談先を明確にし、相談しやすい環境を整えていることが、早めの報告や対応につながる取り組みだと考えられます。
隔離・ゾーニング・動線 環境整備・消毒・嘔吐物処理 集団発生・クラスター対応 職員教育・訓練・情報共有	・感染症ゾーニングマニュアルや嘔吐物処理手順などを新たに整備しマニュアルに沿った実践研修を定期的に行い、周知した結果統一した対応が取れるようになってきた。 ・ゾーニング後、振り返りを持つようにして、思っている事をなんでも吐き出してもらい、今後の改善につなげている。	マニュアルを整備するだけでなく、実践研修を繰り返し、さらに実施後の振り返りを次の改善につなげている点が特徴です。こうした一連の取り組みを継続することが、施設全体の対応力の向上につながると考えられます。
感染症別の対応	・感染が出た時のことを想定し準備をしていたため、初期対応がスムーズに行き、感染が拡がらなかった。	平時から発生時を想定して準備しておくことが、実際の初期対応につながった事例と考えられます。
感染症別の対応 送迎・訪問場面	・コロナウイルス感染症が広がり始めた際、車内の消毒、施設の換気、扇風機の活用、感染源の把握を行い、広がり食い止めた。	発生状況を確認しながら、その場で実施可能な対策を組み合わせ対応した事例と考えられます。
環境整備・消毒・嘔吐物処理 職員教育・訓練・情報共有	・嘔吐処理の研修を定期的に行い、対応できるようにしている	定期的に実践研修を行うことで、必要な場面で職員が対応できるよう備えている点が参考になります。
手指衛生	・作業後の掃除でいつもは職員がアルコール消毒しているが利用者さんにその担当をしてもらったら意識してもらえるようになった。	職員だけでなく、利用者にも感染対策に参加してもらう工夫として参考になる取り組みです。
環境整備・消毒・嘔吐物処理	・毎朝の施設内全ての換気、乾燥時期の加湿器の使用、毎日利用者が帰宅された後に施設内を消毒（アルコール、汚染区域は次亜塩素酸）するため、感染の拡大等は見受けられていない。	施設の状況に応じて、換気や環境清掃・消毒など、日常的な環境整備に継続して取り組まれている事例です。感染対策を日々の業務の中に取り入れ、継続して実践している点が参考になります。
環境整備・消毒・嘔吐物処理 感染症別の対応	・玄関の入り口に消毒液を設置したことで、施設職員、利用者さんや訪問者が使いやすくなった。コロナのピーク時より継続して使用している。	利用者・職員・訪問者が使いやすい場所に設置するという、手指衛生を実践しやすくする工夫がされています。
感染症別の対応	・感染症状のある人の為に トイレなど個別に対応しました。	症状や感染経路を踏まえ、共用による感染機会を減らす工夫として参考になります。